

## 社会科 学習指導案

1 対象・日時 2年C組 令和3年2月19日(金) 2校時

2 本単元で育成したい資質・能力（評価規準）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①中国・四国地方について、都市部と山間部や離島との間で見られる人口偏在や、それぞれの地域での持続可能な地域づくりに向けた取組があることを理解している。 ②人口や都市・村落を中核とした考察で取り上げた人口の偏在や持続可能な地域づくりに向けた取組と、それに関する特色ある自然環境、産業の様子や、そこで生ずる課題を理解している。	①中国・四国地方において、「人口減少が進む中で、これからどのように地域づくりを進めていけば、よいのだろうか」を、都市部と山間部・離島の地域の広がりや各地域内の結び付き、人々の対応に着目して、特色ある自然環境や産業の様子、そこでの人口の偏在や持続可能な地域づくりに向けた取組と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。	①中国・四国地方における「人口減少が進む中で、これからどのように地域づくりを進めていけば、よいのだろうか」の学習課題を基に、中国・四国地方の地域的特色に対する関心を高め、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題について主体的に追究しようとしている。

3 単元「日本の諸地域（中国・四国地方）」について

少子高齢化が進行している日本においては、それに伴う社会保障制度や介護福祉制度の見直しなど、様々な事態に直面している。しかし、自治体単位でみると、地方の村落では、若者が都市に働きに出ることで、地方での働き手や後継者が見つからないなどの過疎化の問題に直面している。一方、都市部では過密が進むだけでなく、出生率の低さによる人口減少の二重構造に陥っている。こうした現状を理解させるためにも、本単元「中国・四国地方」は、日本の諸地域の中で人口や都市・村落を中核とした考察について学習する内容とし、「人口減少が進む中で、これからどのように地域づくりを進めていけばよいのだろうか」という学習課題を設定する。中国・四国地方が抱える都市・村落の特色を、都市部と山間部や離島との間で見られる地域づくりに向けた取組を比較しながら多面的・多角的に考察し、都市・村落のそれぞれのよさや課題に気付くことで、その理由や対策を捉えながら地域の特色を考えさせ、自分たちの生活する地域にも思いをはせるよう学習させていきたい。また、将来どの地域で暮らすことになっても、その地域のよさや課題に気付き、これから自分たちが地域をどのように活性化させていけるのか、各自が根拠をもって提案できることを目指したい。

4 生徒の学びの履歴

これまで「私たちの住む日本ってどんな国？」の学習の中で、その後に行う日本の諸地域の学習の大単元を貫くテーマである、「人口減少社会への挑戦～私たちは人口減少社会とどのように向き合っていけばよいか～」を設定した。この課題を設定することで、地理的事象に対する見方・考えた方を深めるとともに、地理的分野だけでなくTOFYとの関連、延いては3年次に行う公民的分野にも関連させながら思考し続け、根拠を基に自分の意見を主張させていきたい。なお、個人の調査活動の共有については、PowerPointを活用する。これまで、小グループやクラス内でジグソー学習でも共有を図ってきたが、今回はPowerPointを小グループで共有しながら学習を進めることで、共感や提案、自分の調査した地域とのつながりを伝え合うことを期待したい。また、自分の調査について改めて考え直すことにつなげ、最終的には自分の主張を支えるより確かな根拠を示しながら提案することにもつなげていきたい。

本単元においても活動の過程で様々な工夫や驚き、社会を学ぶことの面白さ、考えることの楽しさを味わえるようにすることで、社会的な事象に対し、主体的な生徒を育てることができる学習活動を目指していきたい。

5 資質・能力育成のプロセス（6時間扱い）

次	時	評価規準 (丸番号は、2の評価規準の番号)	【 】内は評価方法及び Cと判断する状況への手立て
1	1   2	<p>知① 本州四国連絡橋が中国・四国地方に与える影響について、資料から考えている。(○)</p> <p>思① 中国・四国地方における人口偏在について、追究する学習課題を見だし、仮説を立てている。(○)</p> <p>知① 中国・四国地方における人口偏在について追究する学習課題を基に、中国・四国地方の地域的特色を理解している。(◎◎)</p>	<p>【ワークシートの記述の点検】 C：ワークシートを用いて一緒に資料を読み取り、中国・四国地方の現状を考えさせる。</p> <p>【ワークシートの記述の確認】 C：ワークシートを用いて課題を確認させ、仮説を立てられるように教科書や地図帳の資料の読み取りを支援する。</p> <p>【ワークシートの記述の確認・分析】 C：ワークシートを用いて一緒に作業を振り返り、学級内で出てきた意見を確認させたり、人口の偏在の現状の読み取りの支援をしたりして、中国・四国地方についての基礎的な事項を理解させる。</p>
		<p>【生徒に獲得させたい認識】 中国・四国地方には、東西に並行して中国山地と四国山地があり、その南北に平野や盆地が点在し、両山地の間に瀬戸内海が位置している。本州四国連絡橋の開通や、高速自動車の整備によって、人やものの行き来が盛んになり、その範囲が広がった。その結果、瀬戸内の柑橘類、桃、ぶどうなどの果実や高知平野の野菜などは、素早い陸上輸送が可能となり、他地域との結び付きが深まった半面、その結果もたらされる経済的な地域の変容である「ストロー効果」を生んだ。ストロー効果によって収益が大都市へ吸収され、地方商業は打撃を受けた。都市が点在する平野と、山間部の瀬戸内海などの離島間には人口の偏在が見られる。また、近年、少子高齢化の進展に伴い、都市でも人口減少の傾向があり、中国・四国地方では、全体的に人口減少が進んでいる。</p>	
2	3   5	<p>知② 中国・四国地方に関する様々な資料を収集し、それらの資料の中から有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。(○)</p> <p>思① 学習課題を基に、地域内の結び付き、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生じる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。(○)</p>	<p>【付箋の記述の確認・ワークシートの記述の点検】 C：有用な情報を資料から読み取れているかなどの進捗状況を確認し、補足するための資料を提示する。</p> <p>【付箋の記述の確認・ワークシートの記述の確認】 C：各担当地域の発表を振り返り、中国・四国地方における地域的特色を確認させる。</p>
3	6	<p>思① 中国・四国地方における各地域の取組について、交流を通して自分の考えをまとめている。(◎)</p> <p>態① 中国・四国地方の地域的特色に対する関心を高め、よりよい社会の実現への視野をもって主体的に追究しようとしている。(◎)</p>	<p>【ワークシートの記述の分析】 C：学習活動を振り返り、理解できたこととできなかったことを、具体的に記述するように促す。</p> <p>【ワークシートの記述の分析】 C：既習事項を振り返りながら、自分の学びをつなげられるように諸資料の読み取りを支援し、自分の考えを記述するように促す。</p>

主たる学習活動	指導上の留意点	時
<ul style="list-style-type: none"> <li>中国・四国地方のイメージを記述し、中国・四国地方の自然環境について確認する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【課題】本州四国連絡橋は、周辺の地域にどのような影響を与えたのだろうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>中国・四国地方に関する資料を読み取り、中国・四国地方は本州四国連絡橋の開通以降に人口の偏在が顕著になり、高齢化も進んだことを共有する。</li> <li>都市部と山間部や離島の間で見られる人口偏在や産業面の資料から読み取れることを確認し、共有する。</li> <li>今後何を学習していくべきか、クラス全体で共有する。</li> <li>中国・四国地方の特徴と人々の営みを関連付ける「問い」を立て、学習課題として共有する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【課題】人口減少が進み、人口の偏在が見られる中で、地域に応じた地域づくりの取組が、どのように進められているのか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>中国・四国地方に関する資料から読み取れたことについて、それぞれ発表し、その内容を全体で共有する。</li> <li>資料から読み取れたことを中心に、中国・四国地方とはどのような地域なのか、深化シートに記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>イメージだけではなく、既習事項も引き出すように発問する。</li> <li>単元を通して、考えの変容・深まりを記録できるワークシート（深化シート）を配付する。</li> <li>単に連絡橋ができた影響の調査活動報告にならないように、クラス内の意見に対して、批判的に考察させたり、長所と短所の立場に立つことを意識させたりして、話し合いを進めさせる。</li> <li>学びの見通しを立てさせる中で、何を調査していくか共有しながら、そのためにはどのような課題を設定するべきか、クラス全体で共有できるようにする。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>既習事項や資料から読み取れたことを使い、中国・四国地方の説明を行わせる。</li> </ul>	1   2
<p>【パフォーマンス課題】社会科の授業で「人口減少社会への挑戦～私たちは人口減少社会とどのように向き合っていけばよいか～」を設定したFy73期生。そんな73期は、全国でも人口減少が進んでいる中国・四国地方において、都市や山間と離島で人口増加や産業の発展している謎について調査することになりました。人々の対応に着目して、特色ある自然環境や産業の様子、そこでの人口の偏在や持続可能な地域づくりに向けた取組を共有しましょう。これまで学習してきたことを根拠に、その地域のよさや課題に気づき、これから自分たちが地域をどのように活性化していくのか、持続可能な提案をしましょう。</p>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>学習プランを使って、本単元の見通しを立てる。</li> <li>学習課題と学びの見通しについて、自分の考えをまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習プランを使って今後の活動の見通しと身に付けたい資質・能力を確認し、調査にかかる時間やスライドづくりの活動計画を立てさせる。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>中国・四国地方の調査で担当した地域について、学習課題に対する調査活動をする。</li> <li>班内でそれぞれが分担した調査内容をPowerPointにまとめる。</li> <li>それぞれの調査した地域について発表する。</li> <li>班の意見を聞き取りながら情報をまとめる。</li> <li>各自が調査してきた地域における地域づくりに関するキーワードを、PowerPointを班で共有しながらマインドマップを作成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>主張するための根拠をどの資料から読み取って得たのかを明確にさせる。</li> <li>調査していく中で、「位置や分布」「空間的相互作用」など、考えられる視点を意識しながら活動させる。</li> <li>ただ情報をまとめるのではなく、単元を貫く課題を意識しながら情報が共有できるように促す。</li> <li>各自のキーワードを関連付けて、課題について多面的・多角的な考察をするように促す。</li> </ul>	3   5
<ul style="list-style-type: none"> <li>単元を貫く課題について再構築された自分の考えを深化シートにまとめる。</li> <li>これまでの学習活動を振り返り、自らの学びの変容や自覚したことなどをまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>深化シート全体を俯瞰し、学習の学びの深まりや思考の変容について着目させる。</li> <li>これまでの学習事項や新たに獲得した認識を基に表現させる。</li> <li>各授業における付箋や学習プランによる自己調整してきた活動についても振り返る際の視点とすることを伝える。</li> </ul>	6

## 6 学びの実現に向けた授業デザイン

### 【「学びに向かう力」が高まっている生徒の姿】

人口の偏在が見られる中国・四国地方の中で、地域に応じた地域づくりの取組が自然環境を生かした産業や地域開発の動向、地域に応じた地域づくりの取組や人々の生活などを調査したり考えたりすることで、中国・四国地方の地域的特色を捉え、よりよい社会の実現を視野に入れて提案しようとしている姿。



### 【「学びに向かう力」を高めていくための指導と評価の工夫】

#### ○観点別学習状況のあり方

##### 1. 「知識・技能」の指導と評価

中国・四国地方は、全国と比べて進んでいる人口減少に対して、地域に応じた持続可能な地域づくりの取組を行っている。各地域の取組によって、高齢者も子育て世代も暮らしやすい地域づくりを行おうとしていることを認識させられる単元構成を心がける。そのためには、中国・四国地方における様々な資料を収集させ、その資料の中から有用な情報を適切に選択しながら説明させたり、官公庁のデータを基に批判的に捉えさせたりする場面を設け、事実に基づいた知識の習得が概念的な理解を伴ったものとなっているかを確認することが重要となる。単元の終末では、「深化シート」に獲得した事実に基づいた知識を整理する活動を通して、一層の定着を図る。また、単元の学習課題を解決しようとする中で、地方の復興を考えさせたり、学年全体で取り組んでいるSDGsの学習活動についてもつなげたりしながら、日本の諸地域の学習を実感させていきたい。

##### 2. 「思考・判断・表現」の指導と評価

生徒が自らの学びを意味付けたり、自覚したりするために、社会的現象の探究活動を可視化し、振り返ることができる一枚式のワークシート「深化シート」を用いる。そうすることで、単元を貫く課題を意識でき、自らの学びの履歴や変容も実感しやすくなると考える。また、単元の終末には「学習プラン」を使って、深化シートのまとめについて共有する。単元で得た認識をまとめる部分（知識・技能）と、資料から読み取りマインドマップに関連付けて適切に表現する部分（思考・判断・表現）を助言する。本単元でも、パフォーマンス課題を設定し身に付けた知識や技能を根拠としながら、中国・四国地方のこれからをいかに表現することができるかを見取っていききたい。実際に中国・四国地方の各地域で取り組まれている活動について議論を重ねる中で、これまで学習してきたことを有機的に結び付け、よりよい社会の実現を視野に入れた提案をさせていきたい。

##### 3. 「主体的に学習に取り組む態度」の指導と評価

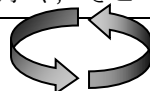
本単元においても、生徒と共に単元を貫く課題を設定する。そのためにも、単元の導入時にどのような資料を読み取らせ、疑問を抱かせるかを心がける。また、単元を貫く課題に対する仮説を立証するため、習得してきた知識や技能を活用して調査計画を立てさせるセルフマネジメントの活動を柱にしてきた。そして、その調査計画を実行する中で、単元を貫く課題にどのように迫ることができたのかという振り返りを、毎時間3色の付箋を使い分けながら記述させた。生徒には3色の付箋と、自身のセルフマネジメントに対する授業者からの形成的な評価を基に、必要に応じて活動計画を修正させることで、学びに向かう力の高まりを促した。

#### ○「考えるための技法」を用いた言語活動の充実

中国・四国地方に関する複数の対象について、共通点のあるもの同士に分類し、そして単元で共有した課題を解決するためにどのような調査活動をしていくのかを**見通し**として立てさせた。そして、調査したことを基に中国・四国地方を**多面的・多角的に見る**ことによって、それぞれの調査事項を**関連付けて**、中国・四国地方にとってよりよい社会の実現について考えさせた。

#### 【本単元での指導事項】 ※（既習）は既習事項

- ・都市部と山間部や離島との間で見られる人口偏在や、それぞれの地域での持続可能な地域づくりに向けた取組があることを理解すること。
- ・人口や都市・村落を中核とした考察の仕方を取り上げた人口の偏在や持続可能な地域づくりに向けた取組とそれに関連する特色ある自然環境、産業の様子や、そこで生ずる課題を理解すること。



#### 【本単元における、総合的な学習の時間（TOFY）とのつながり】

- ・本単元で身に付けた力は、TOFY研究の文献調査における考えの形成に役立つと考えられる。また、日頃から世界や日本で起きているできごとに目を向けることが自分の考えを広げたり深めたりする上で大きな意義のある活動であると実感させ、TOFY研究において幅広い文献調査へつながる単元になると考えられる。